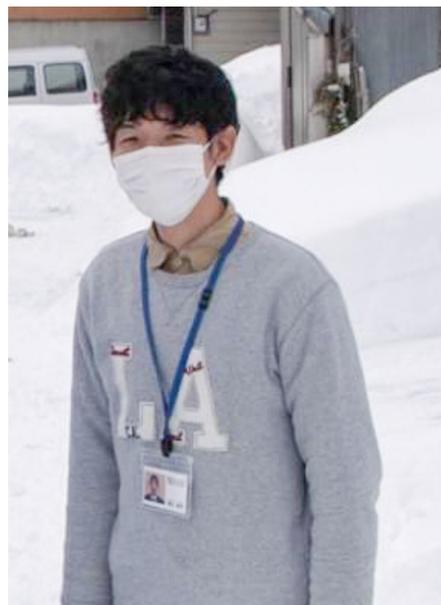




皆さんこんにちは！
 地域おこし協力隊の渡辺です。
 今月の集落支援だよりでは、集落訪問の様子、福島大学の聞き取り調査などについてお届けします。



地域おこし協力隊 集落支援担当

わたなべ たかひろ
渡辺 貴洋 隊員



雪かたしの様子（弥平四郎集落）

集落訪問

今年の冬は断続的に雪が降り、昨年とは比べものにならないくらい雪が積もりました。西会津の本格的な冬の生活は初めて経験するため、少し不安を感じています。

各集落を訪問すると、どの集落でもきれいに雪かたしをしているのを目にします。訪問するたびに、西会津で生活している皆さんがとてもたくましく感じます。屋根からの落雪なども発生しやすいため、雪かたしの際には気を付けて行ってください。



輪投げをする出戸集落の皆さん

出戸集落では、集会所に集まり輪投げの練習をしています。冬への生活は家にこもりがちになりますが、体を動かして近所の人と話す機会があります。

中町集落の共同作業は、年々高齢化が進み、人手不足の状態となっています。現在は、大学生など集落外からの力を借りることで、交流を楽



オンライン調査の様子

とする中山間地域の良さだと思えます。
福島大学の学生によるオンライン調査
 福島大学岩崎ゼミの学生による卒業論文の聞き取り調査を、ビデオ通話を活用して実施しました。中町集落の共同作業と共同生活をテーマに、課題や昔から変わったことについて住民の皆さんから聞き取りを行いました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域のイベントや交流ができないうち、もどかしい1年でした。来年度は、内容や参加人数を限定して実施していきたいと考えています。来年度もよろしく願います。

地域おこし協力隊の任期は、最長で3年となっています。早いことに着任してもうすぐ2年目が終わり、3年目を迎えます。3年目以降もこの町で生活するために、活動や仕事などを模索しています。

3年目に向けて

しみながら作業を行っています。また、冠婚葬祭の簡素化が進み、家での準備がなくなり負担が減ったとの声が聞かれました。
 ほかに、今後集落を維持していくためには、交流人口や関係人口を増やし、楽しく交流を続けていくことが大事だと話していました。